

すべての女性に清潔で 安全なトイレを

マリ・クリスティーヌ

現在、世界人口の約3分の1に当たる24億人がトイレ等の衛生設備を利用できない状況であることをご存知ですか。野外排泄するしかない暮らしは、さまざまな感染症や病気を蔓延させます。無防備な場所での排泄は尊厳が脅かされる上に、特に女性は暴力の被害にあうこともあります。不衛生な環境により、多くの命が失われているのが現状です。

2015年、国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)では「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」と目標6で定めています。この目標の達成に向け、私が副会長を務めている日本ハビタット協会では現在アフリカでトイレ建設事業を実施しています。

ケニア西部の中高生が通うM学校は412名の生徒に対し、不衛生なトイレが2基しかない状況でした。生理中の女子生徒が学校を休みがちになり、勉強についていけず退学してしまう場合もあると聞き、事業実施を決めました。計画を進める中で、ケニアの学校側から「男子トイレを優先し、女子トイレは翌年建設する」と強硬な主張がありました。当初は先に女子トイレを建設する計画だったので何度も異議を申し立てましたが、計画を前に進めるために渋々承諾せざるを得ませんでした。

男子トイレ6基は3ヵ月で完成しましたが、女子トイレは天候不順で着工が大幅に遅れた上、工事がなかなか進まず、催促を繰り返して完成したのは2年後でした。これで女子生徒が快適に過ごせると喜んだのも束の間、今度は「来年から男子校にするので、女子生徒には古いトイレを使用させ、新しいトイレは教師が使う」と連絡がありました。驚いて嚴重な抗議をし、女子生徒が使えるようにしたのは言うまでもありません。ジェンダー問題の根深さを実感しました。女性の地位向上のためには、なかなか表面化しない課題に向き合うことが大切です。これまで以上に真剣に取り組んでいこうと決意を新たにしています。



PROFILE

マリ・クリスティーヌ：異文化コミュニケーター、認定NPO法人日本ハビタット協会副会長、AWC・アジアの女性と子どもネットワーク代表。元国連ハビタット親善大使。上智大学在学中にスカウトがきっかけで芸能界へ。その後、東京工業大学修士課程修了。ドイツ、アメリカ、イラン、タイ等で生活する中で学んだ幅広い視点から国際会議・式典等の司会、講演活動を行う。女性活躍のためのCSRアドバイザーとしても活動。